

令和2年度第2回 淀川区区政会議 議事要旨

日 時：令和2年10月2日（金） 午後6時30分～午後6時40分
午後7時36分～午後8時26分

場 所：淀川区役所 5階 会議室

出席者：

- ・ 委員（22名中14名出席）
増田委員、渡土委員、堀委員、米田委員、福岡委員、中井委員、奥委員、
米山委員、西澤委員、石田委員、光在委員、永野委員、中道委員、横山委員
- ・ 区役所
山本区長、中喜多副区長、西総務課長、久保政策企画課長、畑中市民協働
課長、浅雛保健福祉課長、井上教育支援担当課長、武田保健・子育て支援
担当課長
松尾政策企画課長代理、山崎市民協働課長代理、舟木市民協働課長代理
佐多教育支援担当課長代理、森川保健副主幹 藏本政策企画課担当係長
ほか

内 容：

1. 開 会
2. 区長あいさつ
3. 議 題
 - (1) 令和2年度淀川区運営方針の中間振り返りについて
 - (2) 区政会議の運営について
4. その他

資 料：

次第、区政会議委員名簿、座席表

- ・ よどマガ10月号
- ・ ご意見票

（事前配布資料）

- ・ （資料1）区政会議（部会・全体会議）においてご意見をうかがいたい内容
- ・ （資料2）令和2年度 運営方針重点的に取り組む主な経営課題（概要版）

1. 開会

2. 区長あいさつ

(各部会開催)

3. 議題

(1) 令和2年度淀川区運営方針の中間振り返りについて

○教育・子育て部会の意見要旨（発表者：石田委員）

- ・ヨドジユクは十三会場、美津島会場、東三国会場で、合計55名が受講している状態であるが、例えば、地域の社会福祉会館などを使い会場を増やせば、もっと多くの人に受講してもらえるのではないか。
- ・ヨドジユクに参加した生徒のアンケートで、週5回以上自宅学習に取り組むという指標になっているが、目標は週5日ではなく毎日にしてみてはどうか。
- ・小学生補習事業について、宿題をするだけの取り組みになっているのではないか。評価の指標が、全実施校における年間の平均参加児童の合計となっているが、参加者には申込みをしているだけで、実質参加していない子どもの数も含まれていると思うので、実質参加している子どもの実数はどうなっているのか知りたい。
- ・子ども未来輝き事業は、小学校1年生から中学校3年生までが参加しているということだが、年齢によって子どもの目標や何を目指すのかというのが違うと思う。このように年齢差がある中で統一した目標を設定するのは難しいのではないか。
- ・地域の子育てサロンはもともと外に出られない方、子育てに悩んで鬱になり引き籠っている状態の方を対象にされていて、そういう人に出てきていただいて、仲間で一緒に子育てをしていこうという目的だったのが、今は活発に出てこられる人ばかりが対象になっており、目的が変わってきているのではないか。評価の指標について、現在はサロンに参加している子どもの中の新生児の割合となっているが、淀川区で生まれた全ての新生児のうち、参加する子どもたちが35%以上になればいいのではないか。

○安全・安心なまち部会の意見要旨（発表者：増田委員）

- ・そもそも目標は100点満点を目指すものではないのかという話も出たが、この目標数値は、現状よりもワンステップ上がるよう取り組みを進めるという意味で設定していると、区役所から説明を受けた。
- ・自助の取り組みでは、イベントに来る人の防災意識はもともと高いので、不特

定多数に向けた指標が必要ではないか。各具体的取組のプロセス指標が、成果指標である7日分の備蓄を達成できるような指標になっていないのではないか。イベントの防災意識の向上といった指標よりも効果的なものがあるのではないか。備蓄が必要だと頭で分かっているけど動けない人がいると思うので、行動に移せるような目標にしてほしい。

- ・共助の取り組みでは、目標設定をもう少し上げてほしいのではないか。例えば津波避難ビルの高い場所に印があれば普通に歩いていても「あれが津波避難ビルだ」ということが容易に分かり、津波避難ビルを知っている区民の割合は40%以上になるのではないか。
- ・見守り支援体制に関しては、無作為で測定できる指標を設定することが必要ではないか。

○「コミュニティ力向上部会」グループの意見発表（発表者：奥委員）

- ・若年層はそもそも地域とは関わらないという現実があるのであれば、お隣さんとなつがっている割合は、40%ぐらいが当たり前ではないか。その割合を増やしていきたいというのであれば、皆さんが興味のある防災や祭りなどを活用して共助の重要性をどんどんどんどんアピールしていくことが大事である。
- ・地域としては、地活協にNPOや企業など、そういった団体がどんどん入ってきてほしいのではないかと考えている。
- ・今、いろんな助成金などもNPOにも広げられているようなので、そういったものをより広げていき、地活協との連携した取り組みについても広報誌などを使ってもっとアピールしていったらいいのではないか。
- ・企業は地活協に参加したくても、どこに地活協の拠点があって、どうコンタクトすればいいかが分からないということもあると思うので、地域の受け入れ態勢についても整備して広報していく必要がある。
- ・訴求力の強いイベントを実施するには、企業やNPOの新しい感覚を取り入れていくことが大事だと思う。
- ・コミュニティ全体では、SNS等も活用した情報発信、特にインターネット関係で区民が情報を受け取れる機会をもっと増やしてほしい。
- ・区民のための区役所づくりにおいては、行政はそもそも民間のサービス業とは違うと思っている。
- ・業務運営と窓口サイドの向上と一緒に、風通しのいい区役所、職場にするためには、職員が区役所に勤めていることに誇りが生まれれば、ともっと元気に笑顔で接客できるのではないか。

（２）区政会議の運営について

- ・区政会議のオンライン開催について要望が出ているので、導入に向けて意見を頂きたい（蔵本政策企画課担当係長）
 - ・オンライン開催を実施しても、現在の会議スタイルがなくなるわけではなく、選択肢の１つとしてリモート参加を選びたいということだと思う。参加しますと回答した人は２２名のうち６名であるが、その他の方たちは、どういう理由で参加しないのかを聞いたほうがいいと思う。（横山委員）
 - ・要するに自分の家にそういう環境がないからだと思う。オンライン会議をやろうとすると、個人がパソコンを買ったりしないといけない。そういう方がやりたくないということじゃないかと思う。だから、区役所が全部それをそろえて使い方を教えれば全員やるのではないか。（渡士委員）
- ⇒機材を買うのは難しいが、環境整備や使い方のアドバイスは行いたいと考えている。（蔵本政策企画課担当係長）
- ⇒全員がネットによる会議をしようと思っているわけではなく、自宅に環境がある方はそちらも選択できるように、選択肢を広げようという趣旨であるため、御理解いただきたい。（山本淀川区長）
- ・リモート参加したいという方はしたらいいと思う。私は、パソコンを使いこなす自信がないので参加しないが、使いこなせるのであれば、リモート参加はいいのではないかと思う。（光在委員）
 - ・本日泉水議長が急遽欠席になってしまったが、急用で来れなくなった場合にも、リモート参加という選択肢があればいいと思った。（増田委員）
 - ・子供たちが将来当たり前に行っていくことを、今から大人だってやっていきませんかという提案。地域のコミュニティも新型コロナ感染拡大の影響で、会合の量は大きく減っている。このような状況でも区政会議を密に行っていくための手段として、オンライン会議にぜひチャレンジしてもらえればと思う。（奥委員）